

第 10 回韓日未来フォーラムを終えて

大阪大学外国語学部朝鮮語専攻二回生 緑谷泉

今回ソウルで行われた第 10 回韓日未来フォーラムに参加し同世代の韓国や日本の大学生と意見交換し合った事は、私にとって日韓関係について改めて深く考える良い機会になったと思います。私はこの韓日未来フォーラムに参加するのは 2 回目なのですが、今回は初めて参加した時とは違うテーマについて違うメンバーで話し合い、1 回目とはまた違った学びや刺激を得ることが出来ました。

私達の班の議題は「領土問題」でした。日本と韓国の両国間で長年議論されてきた竹島、独島問題について韓国人の考えを直接自分の耳で聞き、日本人として私が持っている意見を伝えてみたかったというのが私がこのテーマを選んだ理由です。

私達の班ではまず、日本人と韓国人に分かれてそれぞれの国の考え、意見をまとめることから始めました。同じ日本人でも一人一人少しずつ違う考えを持っていることが分かり、日本人間での意見交換も非常に貴重な経験であると感じました。1 時間ほど日本人、韓国人に分かれて話し合った結果、日本側としては韓国が竹島独島を軍事的に占領しているのは国際法に違反するため、不法占拠に当たるのではないかという意見が全員一致で出た意見でした。その後、韓国側でまとめられた意見と日本側でまとめられた意見を交流し、本格的に議論をスタートさせるという流れでした。

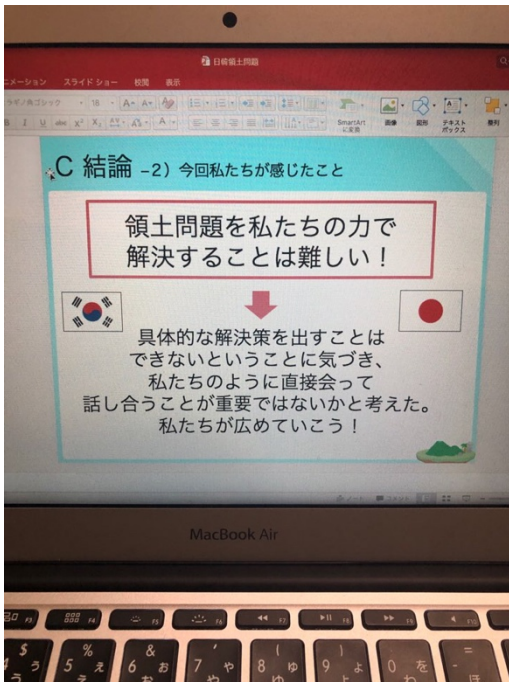
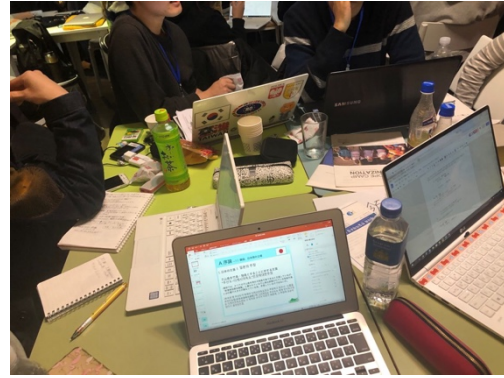
私はフォーラムの開始前の段階でこの竹島独島の領土問題について話し合うと決まったとき、あまりにも関連知識が無かったためにインターネットで検索して調べてみたのですが、そのとき日本語で書かれてあるサイトの情報は日本の立場から述べてあるものばかりでとても偏った考えが多いということを感じました。何が正しいのかも分からずどの情報を信じていいのかも分からずに当惑したのを覚えています。おそらく韓国人の人が韓国語で同じことを検索したら韓国側の立場から述べられた情報や意見がほとんどなのではないかと思います。このことについても議論したのですが、日本人メンバーは学校などで竹島独島の問題についてほとんど何も教えられなかったためこの問題について知ろうとするには自分で意欲的に調べる必要がありその際に出てくる情報のどれが信用に値するものなのか分からないと感じる人が多かったのに対し、韓国人メンバーは皆幼い時から学校で竹島独島について詳しく学ぶ機会が多くあったため学校で教えられることは当然正しい情報だと信じて疑ったことはないと言う人がほとんどでした。また韓国人メンバーの話によると、独島の歌という韓国人ならばほぼ全員歌うことが出来るという歌があるそうです。この歌は学校で教えられるため韓国の子供達は必然的に歌えるようになるらしく、小学生の頃から領

土問題についてもかなり教育されてきたとのことでした。それに比べて日本では領土問題が存在するという事実は教えられるものの詳しいことについては一切扱わないため、国民の領土問題に対する知識や関心は韓国国民より遥かに低いレベルであると感じました。また、韓国ではテレビで放送される天気予報などで当たり前のように竹島独島の天気も取り扱っているのですが、韓国国民もこれは少し竹島独島が韓国の領土であるというアピールの様にも感じるという意見も出ました。このように、日本と韓国では竹島独島の問題に対する国家の熱量に大きく差があり、そのせいで国民の領土問題に対する関心や知識のレベルにも差が出来ているのではないかと感じました。

私達の班の方針は、「竹島独島がどちらの国の領土だと主張し合うのではなく友好的に解決へと向かうにはどうしたらいいのかを話し合おう」というものでした。竹島は日本の領土だ、独島は韓国の領土だと互いに主張したところで何も解決せず、両国の溝は深まるばかりだという意見で班全員が一致したからです。日韓両国の学生が集まり、領土問題というデリケートな話題について話し合うという機会は日常的に多くあるものではないため、この機会を大切にしたいという気持ちは皆が持っていたのではないかと思います。そのため、自分の意見を押し付けるのではなく、相手の意見にも耳を傾けながら話し合うことが出来ました。私達の班は、領土問題を私達の力で解決することは難しく具体的な解決案を出すことは出来ないけれど今回の韓日未来フォーラムのように両国の学生が「直接」会って話し合うことが重要ではないかという結論を出しました。互いの国に対して持っている誤解を解いていくことは非常に重要であり、それぞれが持っている意見を常に交換し合うことが日韓関係の改善に繋がっていくのではないかと思います。日本人メンバーと韓国人メンバー、全員が納得する結論を出すことが出来て非常に実りのあった3日間だったと感じました。

また、議論以外の時間などに他の参加者の方と親交を深めることが出来て楽しい時間もたくさん過ごせた3日間でもありました。私は大学で韓国語を専攻しているので、韓国人参加者の方と韓国語で話すのも自分にとって非常に良い機会でした。また、各チームにいる通訳の学生さんが日本語と韓国語を使いこなしながら私達の橋渡しをしてくれている姿はとてもしっかりと刺激をもらいました。私もいつか通訳が出来るくらいの韓国語の実力を身に付けたいと強く思いました。

2泊3日という短い期間に本当に多くのことを感じ、そして学ぶことが出来たフォーラムでした。最近特に日韓関係に冷え込みが見られていますが、今回のフォーラムのような個人レベルでの日韓交流は非常に重要でありこれからも続けていくべきであると思います。誰かのことを好きになるにはまずその相手のことをよく知らなければいけないように、日本と韓国ももっと互いのことを知っていく必要があると感じました。3日間、本音をぶつけて話し合い、一緒にたくさん笑い、発表のための準備を共に頑張った同じ領土問題チームの仲間達、そして実行委員の皆さんには本当に感謝でいっぱいです。ありがとうございました！



B. 本론

- 3) 쌍방의 오해와 선입견

오해1. 반일감정의 대상은 일본인 전체?

→ 한국은 혐일과 반일을 잘 구별해서 쓰는 편이다. 하지만, 일본 혐한과 반한을 구별하지 않는다. 왜냐하면, 정부와 일본인 전체를 구분하는 것이 익숙치 않기 때문이다. 따라서, 일본정부를 비판하는 발언이 일본인 전체를 비난하는 발언으로 여겨질 수 있다.

오해2. 일본은 반일감정으로 정치적 표출이를 한다?

→ 일본인은 보통 정치에 관심이 많지 않다. 오히려 야당(입헌민주당)이 자민당보다 투표율이 떨어져 있다. 자민당이 무조건 옳다는 것이 아니며, 단지 야당에 대한 신뢰도가 낮기 때문에 자민당을 뽑는다.



